

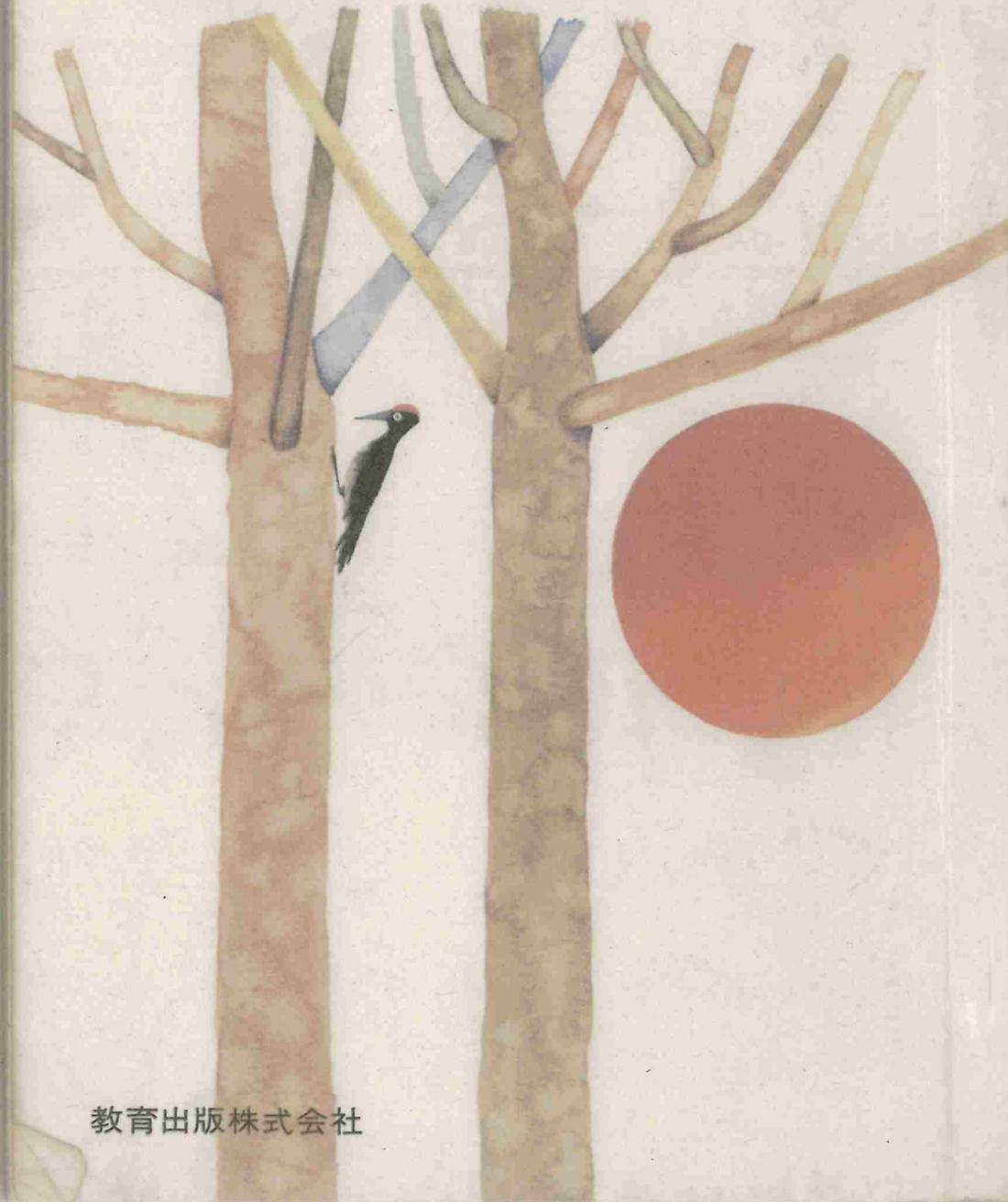
新
版

国語

4 年下

文部省検定済教科書

17	国語 4112
教出	



教育出版株式会社

○書き表し方に気をつけて読み、だんらくとだんらくのつながりを考えよう。

三 三島池のまがも

1

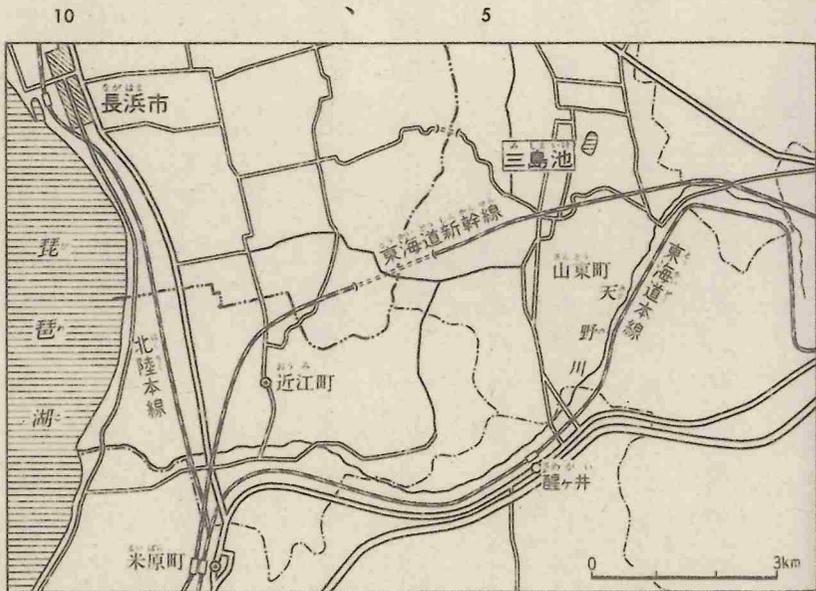
琵琶湖の北東に、三島池とよばれる、周リ一キロメートルほどの池があります。池の中には、五つの小島がうかび、岸辺や島々には、よしやまこもがしげっています。辺りは、なだらかなおかや水田が続き、とても静かな所です。

この池には、毎年、秋になると、まがもやがんなどのわたり鳥が、北の国からやってきます。そして、春になると、ま

た北の国へ帰っていきます。

ところで、かなり以前から、それらのわたり鳥の中には、春になっても北の国へは帰らず、そのままこの池で夏をこすものがあるらしい、といわれています。しかし、言い伝えだけで、それをはっきりとたしかめた人はいりませんでした。

2



湖

なだらか

水田
静か

以前

言い伝え

昭和三十一年の愛鳥週間の時でした。三島池の近くにある大東^{だいとう}中学校の科学クラブでは、夏をこすわたり鳥を見つけて、くわしく観察してみよう、ということになりました。しかし、わたり鳥のすがたは、なかなか見つかりませんでした。

岸辺のよしが人のせたけほどにのびて、三島池に夏が来ま⁵した。ある日、大東中学校の生徒が、ぐうぜん、この池で泳いでいる三ばのまがもを見つけました。おす二わ、めす一わのまがもが、青々とのびたよしの間を見えがくれしながら泳いでいるのでした。この池で夏をこすわたり鳥がいる、という言い伝えは、やはり、ほんとうだったのです。科学クラブ¹⁰では、さっそく、くわしい観察を続けました。

生徒。
ぐうぜん
見えがく
れ



まがもを観察中の生徒

そのけっか、この三ばのまがもが、この池で、ぶじに夏をこしたことがたしかめられました。けれども、たまごを産んだり、ひなを育てたりするのかどうかは、わかりませんでした。⁵

産む

昭和三十二年春、冬をこしたまがもたちは、次々に北の国へ帰っていきま¹⁰した。しかし、四月になっても、

おす二わ、めす一わのまがもだけは、帰らずに、この池に残っているのです。そればかりではありません。五月八日には、岸辺のよしの間に十一このたまごの入ったすが発見されました。残っているまがもは、ここで夏をこすだけでなく、ひなを育てるかもしれないのです。だれもが、「なんとかして、ひなをかえすのを見とどけたいものだ。」と思いました。

しかし、たまごを発見してから数日後、雨で池の水かさがまして、まがものすは、すっかり水につかっしまいました。みんなは、水が引くのを待って、急いですの所に行ってみました。たまごを調べてみると、はねまで生えたひなが、みんな死んでいました。

「すが水につかりさえしなければ、こんなことにはならなかったのに。」と、みんなは、たいへん残念がりました。

すが水につからないようにするには、どうしたらいいか。

——科学クラブの生徒たちは、会合を開いては話し合いました。「すにうきぶくろをつけて、水かさがましても、うかんだままでいられるようにしたら、どうだろう。」

「そうだ。板のうらにうきぶくろをつけてうかばせ、その上にすをのせればいい。」

この思いつきで、科学クラブのみんなが元気づきました。

まがもの体重やすの重さなどを調べました。そして、オートバイのチューブ二本をうきわにし、その上に一メートル四方

五月八日

見とどける
水かさ

残念がる

会合

体重

の板を取りつけることになりました。

4

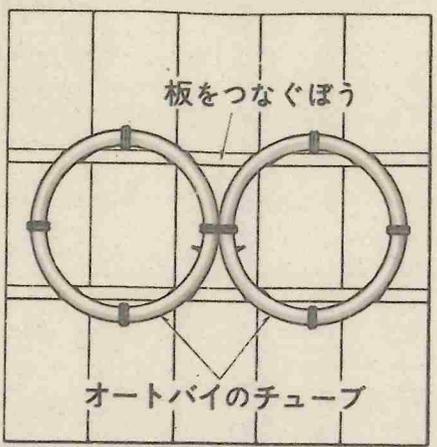
明けて昭和三十三年四月、おす二わ、めす一わのまがもは、やはり三島池に残っていました。科学クラブでは、まがもが

安心してすを作り、そこでたまごを産めるように、遠くから観察を続けました。

五月三十日、三年生の男生徒が、小島のよしの間に、まがものすがあ

男・生徒

10



人工うきすのうら側

十このたまごが入っていました。

知らせを受けた科学クラブでは、さつそく、昨年の苦いけいけんのあとで考え出した、あの人工うきすを作りにかかりました。

5

六月三日、夕方になって、雨がふってきました。科学クラブの生徒たちは、まず、たまごをだいている親鳥を遠ざけてから、できあがった人工うきすを池にうかべ、その上にまがものすをうつしまし

10



うきすにすをうつす生徒たち

昨・年
苦・い
人・工

た。水かさがましても流れていかないように、うきすにひもをつけて、やなぎの木につながりました。いつもなら、親鳥は、三十分もたてば、すにもどってくるのですが、その日は、とうとうもどってきませんでした。不安な一夜が明けて、よく四日の早朝、そうがん鏡でのぞいて見ると、親鳥は、しっか₅りとたまごをだいているのでした。

六月十日、とうとう、四わのひなを連れて遊んでいるまがもを発見しました。道のすぐそばまで来ているので、手に取るようにわかりました。しかし、人かげに気づくと、まがもの親子は、すばやくよしの葉のかげに入って、見えなくなり₁₀ました。

「よかったな。ひながぶじにかえった。」

そう言って、科学クラブの生徒たちはもちろん、ほかの生徒たちも、先生がたも、地元の人たちも、みんな、心から喜び合いました。

それまで、まがもは、北海道のようなすずしい気候の所で₅なければ夏をこさない、と考えられていました。それが、滋_し賀_か県の三島池で夏をこして、しかも、ひなが育ったのですから、生物学者もたいへんおどろきました。

5

昭和三十四年、滋賀県では、三島池のまがもを、天然記念₁₀

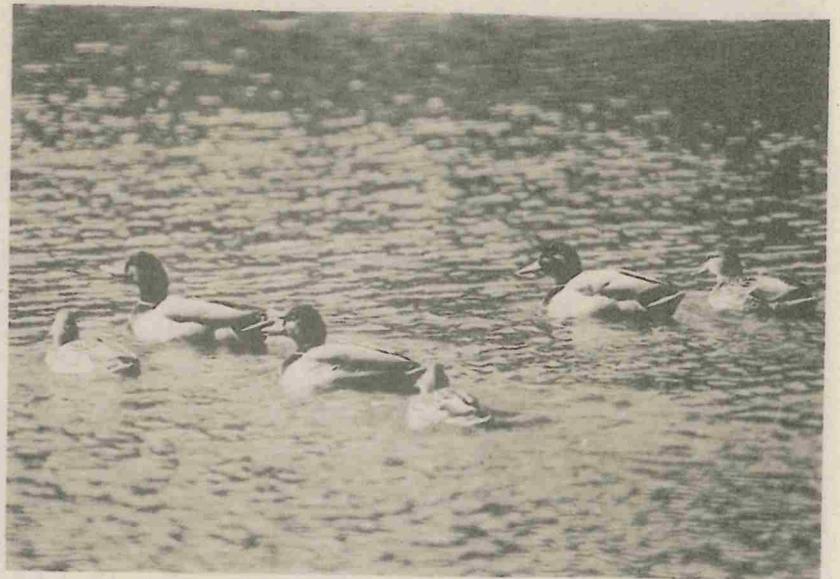
不安
早朝
そうがん
鏡

手に取る
ように

はもち
ろん
地元

気候

天然記念
物



物に指定しました。そして、池とその周り一帯は、鳥やけものをつくべつにほごする地区となりました。

指定 一帯 地区 卒業

大東中学校の科学クラブの生徒たちは、次々に卒業していききました。しかし、あとに続く生徒たちが受けついで、まがもの生活を守り続けています。

三島池で夏をこすまがもは、今¹⁰では、二十ぱ近くになっています。

◎ 書き表し方に気をつけて、1と2、

3と4、4と5のつながりを調べましょう。

(例)

- ① この池で夏をこすものがあるらしい、といわれていました。
- ② この池で夏をこすわたり鳥がいる、という言い伝えは、やはり、ほんとうだったのです。

2 次の文に気をつけて読みましょう。

- (1) 月日や、数字の入っている文。
(2) 大東中学校の生徒がしたことや、

考えたことがよくわかる文。

☆ 1 次の文の——をつけたことばには、どんなことばがかかっているでしょう。

○ 琵琶湖の北東に、三島池とよばれる、周リ一キロメートルほどの池があります。

2 次のことばは、どんなことばが組み合わさってできているでしょう。

○ 愛鳥週間

○ 天然記念物

3 次のことばを使って、短い文を作ってみましょう。

○ しかも

監修者

法政大学名誉教授 西尾 実
文 学 博 士

〔別記著作者〕

山形女子短期大学教授 秋保光吉 東京学芸大学教授 永野 賢
日本女子大学助教授 安藤美紀夫 前成城学園初等学校校長 馬場 正男
児童詩研究家 稲村謙一 筑波大学教授 福沢周亮
児童文学者 今西祐行 筑波大学教授 湊 吉正
東京都立文京区立論立大内敏光 新潟大学教授 箕輪真澄
千葉県立東葛小中学校校長 佐々木定夫 上智大学教授 森岡健二
東京大学教授 柴田 武 東京都練馬区立森田倫正
山梨大学教授 清水茂夫 前札幌市立二条小学校校長 山本吉美
千葉県立寒川小学校校長 高橋金次
筑波大学付属小中学校 中村元千 教育出版株式会社編集部

編集顧問

児童文学者 坪田讓治 拓九大学名誉教授 古田 拓

さし絵

桜井 誠・沢井一三郎・鈴木登良次・滝平二郎・深沢紅子
藤沢友一・山田史郎

表紙

浦島弘二デザイン事務所・新山千樫・イラスト＝長野博一

17 教出 国語 4112

新 版 国 語 4 年 下

昭和54年6月10日 印刷
昭和54年6月20日 発行
昭和51年4月10日 文部省検定済

定価 文部大臣が認可し官報で告示した定価
(上記の定価は、各教科書取次供給所に表示します)

著 者 者 西 尾 実
ほか20名(別記)

発 行 者 東京都千代田区神田神保町2の10
教育出版株式会社
代表者 宍戸 馨

印 刷 者 東京都新宿区市谷加賀町1の12
大日本印刷株式会社
代表者 北島 織衛

発 行 所 東京都千代田区神田神保町2の10
教 育 出 版 株 式 有 限 公 司
電話 東京 (261) 代表0191 千101

この教科書にもとづくワークブック・解説書、ならびにこれに類するものの無断発行を禁じます。
この教科書に掲載している著作物についてのお問い合わせは、すべて教育出版株式会社編集部にお寄せ願います。

四年

四組

73	73	73	73	73	73	73	73	70	69	68	68	67
億	良	票	拳	委	求	救	航	試	滿	旗	信	景
億	良	票	拳	委	求	救	航	試	滿	旗	信	景
80	79	78	78	78	78	75	75	75	73	73	73	73
紀	唱	付	器	量	的	單	腸	胃	令	貯	脈	英
紀	唱	付	器	量	的	單	腸	胃	令	貯	脈	英
121	114	112	111	110	107	107	107	107	106	102	86	82
塩	課	冷	倉	姉	望	希	氏	毒	告	勞	老	孫
塩	課	冷	倉	姉	望	希	氏	毒	告	勞	老	孫